社会起業家支援 仙台で公開審査

畠山さんら4人決定

社会起業家を育成するプロジェクト「ソーシャルビジネス・トライアル」の支援対象を決める公開審査会が2日、仙台市青葉区であり、同市の会社社長畠山明さん(41)ら4人が選ばれた。

書類審査を通った8人が事業計画を発表。大学教授ら審査員の評価に来場者の意見も踏まえ、対象者を決めた。

畠山さんは財団法人を設立し、学習障害のある子どもを個別指導する事業の計画を説明した。社会性が認められて最も高い評価を受け、「子どもたちの役に立つよう頑張りたい」と語った。

4人は事業を始める資金として、それぞれ上限150万円の助成を受ける。経営に詳しい専門家らの助言も受けられる。

プロジェクトは、環境や福祉など地域の課題を事業として解決する社会起業家を育てるのが狙い。NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター(仙台市)などのNPOや起業家が国の交付金を活用し、全国9地域で展開している。

東北では2年間で8人を支援する。初年度の今年は書類選考に15件の応募があった。

ほかの支援対象者と事業テーマは次の通り。

「リハビリに特化した通所介護サービス」(山形県庄内町・佐藤康之さん)▽「農産物の共同購入の仕組みづくり」(青森市・今美香さん)▽「宮城県・浦戸諸島の活性化」(仙台市・三浦勝治さん)

社会起業家の輩出に向けて支援の対象を決めた審査会